



第二十四回

能青葉仙台

喜多流 能

白田村

シテ 佐々木多門

和泉流 狂言

舟渡智

シテ 野村万作

人間国宝

喜多流 能

絵馬

女体

シテ 友枝昭世

人間国宝



「絵馬 女体」友枝昭世 所演

平成29年5月20日(土)

午後1時30分開演(12時50分開場)

電力ホール(仙台市青葉区)

入場料(全席指定・税込) S席 10,000円 A席 8,000円 B席 6,000円 学生席 2,500円 2月17日(金) 10:00~ 一般発売

主催/仙台青葉能の会、(公財)仙台市市民文化事業団、河北新報社 お問い合わせ/河北新報社企画事業部 ☎022(211)1332

共催/電力ホール ※10時~17時 土・日・祝休

◆協力 仙台市博物館、中尊寺、(公財)瑞鳳殿、NHK仙台放送局、伊達家伯(かはく)記念會、白石市古典芸能伝承の館「碧水園」

◆後援 宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市能楽振興協会

TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送、Date fm、松井建設(株)東北支店

プレイガイド 藤崎、仙台三越、さくら野百貨店仙台店、チケットぴあ(Pコード 456-457)、日立システムズホール仙台

イズミティ21、河北チケットセンター(電話受付のみ) ☎022(211)1189 ※10時~14時 土・日・祝休

※学生席は河北チケットセンターのみで販売 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。



能葉青台仙

第二十回



※伊達家より家紋使用許可済み

献香之儀

仙台伊達家十八代当主 伊達 泰宗

開演 午後一時三十分

一時四十五分

喜多流

能 絵

後シテ・天照大神
前シテ・老翁

ツレ・力神 大島 輝久
ツレ・天鈿女 友枝 真也
ツレ・姥 内田 成信
友枝 昭世

馬

女体

ワキ・臣下 森 常好
ワキツレ・従者 森 常太郎

アイ・蓬萊島ノ鬼 石田 幸雄

後見 内田 安信
佐藤 章雄
中村 邦生

大鼓 國川 純 太鼓 林 雄一郎
小鼓 鶺鴒澤洋太郎 笛 松田 弘之

地謡 佐藤 寛泰 狩野 了一
金子敬一郎 大村 靖嗣
友枝 雄人 香川 茂
塩津 圭介 長島

——休憩 十分——

和泉流

狂言

舟 渡 智

男・船頭 野村 万作

中村 修一
石田 幸雄

後シテ・坂上田村麿ノ靈
前シテ・童子

佐々木多門

喜多流

能 白 田 村

アイ・清水寺門前ノ者 竹山 悠樹

ワキ・旅僧 森 常好
ワキツレ・従僧 森 常太郎

大鼓 國川 純 笛 松田 弘之
小鼓 鶺鴒澤洋太郎

地謡 佐藤 陽 内田 成信
塩津 圭介 長島 茂
金子敬一郎 栗谷 明生
佐藤 寛泰 狩野 了一

能「絵馬」女体

淳仁天皇の勅使が伊勢神宮へ、宝物奉納のために参向する。年の終わりの節分の夜であったため、齋宮に絵馬を掛ける慣らがあると聞き、見ようと訪れる。黒馬の絵馬(雨の象徴)を持つ姥と、白馬の絵馬(日の象徴)を持つ尉が現れて、どちらの絵馬を掛けるか争うが、今年には二つの絵馬を同時に掛けようということに落ち着く。老夫婦は「掛ける」ことの物尽くしの話をうたい、実は我々は伊勢の二柱の神であると正体を明かして消えてしまう。

やがて神宮の神域に、天照大神と天鈿女命、さらに手力男命が出現して天岩戸の神話を繰り広げる。天照大神が岩戸隠れされたとき、天鈿女命が神樂を面白く舞い、手力男命と共に岩戸を開き、再び明るい世に戻ったさまを見せ、泰平なることのできたを喜ぶ。

「女体」の小書特殊演出では天照大神の神舞、天鈿女命の神樂から手力男命の急ノ舞へと続き、それぞれ神の位や神話を面白く展開するという、重い習いとなる。

宮を表す作り物が岩戸にもなってしまう、能ならではの演出も見どころの曲。

狂言「舟渡智」

京都から琵琶湖畔の矢橋へ、妻の実家に初めて挨拶に向かう智が、大津松本から渡し舟に乗る。智の持つ土産の酒樽に目を付けた酒好きの船頭は、是非一献と所望する。智が断ると舟を激しく揺らしたり漕ぐのをやめたりして強要するので、仕方なく飲ませ、軽くなった酒樽を持って男宅へ向かう。

やがて外出していた男が帰宅するが、物陰から智の顔を見てびっくり仰天。男こそが先程舟で酒を無理やり振舞わせた船頭だったのだ。男は姑の勧めで髭を剃り、顔を隠して対面するのだが、

舞台全体を湖に見立て、舟に乗っている様子を棹一本で表現するなど、狂言のマイムとしての面白さがあります。

能「白田村」

旅の僧が京都の清水寺へ参詣したところ、地主権現の桜の下で、気高く美しい花守の童子に出逢う。昔、観音のお告げを受けた僧がそのお告げ通りに、この東山の地で金色の仏像を見つけ、坂上田村麿(田村麻呂)を檀那と頼んで建立したという、清水寺の来歴を童子が物語る。眺めの良い寺から見渡せる花の名所を僧に教え、夕陽に照り輝く満開の桜を愛でて興じていたが、やがて童子は田村堂の内へ消えて去ってしまう。

夜半に僧が用いをしていると、田村麿の霊が昔日の武將姿で現れ、勅命により鈴鹿山の鬼神を討伐に出向いたとき、千手観音の助けによって敵を滅ぼした有様を舞い語る。大將軍の勇姿を見せ、観音の御力を讃えて消えてゆく。

「白田村」の演式では装束が全て白式となり、勝ち軍(勝修羅物)のためたさを際立たせる舞台効果となる。喜多流では特にこの演式を大事に扱い、「田村」の曲名を「白田村」とする。

終演予定 午後五時十五分頃